

特集

# 森林を守り育て次世代へ

●問合先 農山漁村整備課林務水産係 (☎232591)

↑十分な管理が行き届いていない森林 (市内)

本市は、八幡岳や青螺山、国見岳など三方を山々に囲まれた緑豊かなまちです。市の森林面積は約1万4千ヘクタール。市域の約55パーセントに当たり、県平均45パーセントに比べると高い水準にあります。しかし、その森林も間伐など整備の遅れから、その多くが荒廃しているという状況です。

森林は、生物を育み、土砂災害を防ぐなど、私たちの暮らしにかけがえのない機能を持っています。私たちの財産であるこの森林を守り育て、子孫に残すにはどうしたらよいのでしょうか。今回の特集では、森林が持つ機能や森林を取り巻く状況のほか、市内の森林の現状と課題、さらに各種団体などの取り組みについて紹介します。この機会に、森林を守り、次世代に引き継ぐためにできることについて、あなたも考えてみませんか。

森林が持つ公益的機能とは

森林は主に、次のような公益的機能を持っています。

#### ①生物多様性保全機能

森林は、多くの鳥類や昆虫類をはじめとする野生動物の生息・生育の場となっています。このように、森林は、遺伝子や生物種、生態系を保全するという、根源的な機能を持っています。

#### ②地球環境保全機能

森林は光合成により二酸化炭素を吸収・貯蔵し、酸素を作ります。

#### ③土砂災害防止機能

森林の中に生えている草や低い木、落ち葉などが地表の浸食を抑制するとともに、森林の樹木が根を張り巡らすことによつて表面土壌の流出を防いでいます。

#### ④水源かん養機能

森林に降った雨水を貯留し、河川に流れ込む水の量を調整して川の流量を安定させ、洪水や渇水を緩和する機能を持っています。また、雨水がろ過されることにより、水質が浄化されます。

## 森林を取り巻く状況

かつて人は、生活に必要な建築資材や薪炭などを採取するために山に入りました。山に入ることで森林を守り、育て、管理してきました。現在では、戦後のエネルギー革命や生活環境の変化などで木材の需要が低迷し、山に入る機会が減ってきています。

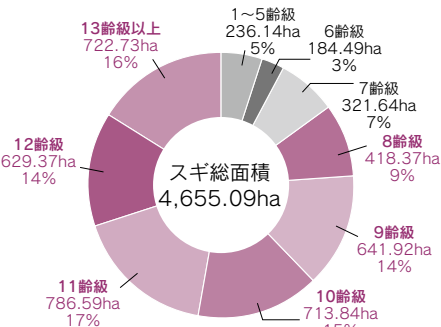
### 〈戦後の大規模な植林〉

戦後の復興などで木材の需要が一時的に高まり、木材価格が高騰。昭和30年代から40年代にかけて、全国的にスギやヒノキなどの大規模な植林（拡大造林）が行われました。

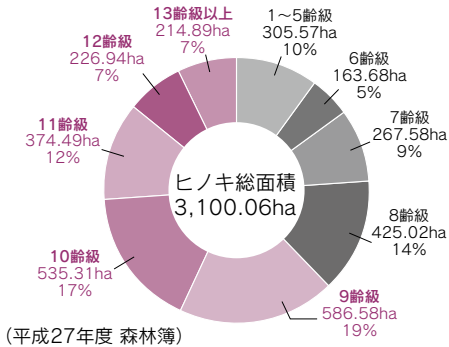
### 〈安価な輸入材の増加〉

その後、木材の輸入自由化

【グラフ1】 階級別森林面積（スギ）



【グラフ2】 階級別森林面積（ヒノキ）



※木材の収穫期にあたる伐採期はスギでは35年生、ヒノキでは40年生となった。グラフ中、桃色は伐採可能な壮齢林。

により、安くて安定的に供給される外国産材の輸入が増加。昭和55年以降、国産材の価格は下がり続けています。林業が衰退する原因となりました。

### 〈就業者不足と林業の衰退〉

また、林業就業者の減少や高齢化などから、放置される森林が増加しています。加えて、利益が出るまでに数十年という長い時間を要する林業は、衰退の一途をたどることになります。

### 〈荒廃する森林と公益的機能〉

青々と見える森林も、一歩中に足を踏み入れると、林内は暗く、細長く育った木々であふれていることがあります。森林が持つ公益的機能を保つことができません。

## 市の現状と課題

### 〈民有林における人工林の状況〉

市内の人工林（木材生産の目的で植林されたもの）の多くが戦後の拡大造林で植えられたものです。木材として利用できるスギ・ヒノキの壮齢林は約75割あり、全体的に構成が偏っています。【グラフ1】、【グラフ2】。

### 〈どのくらい間伐が必要？〉

市内の荒廃森林は2519ヘクタール。これは、間伐が必要な荒廃森林の面積です。一方、平成26年度に実施した荒廃森林を含む森林間伐面積は、約72ヘクタールです。

### 〈森林所有者の多くが小規模〉

市で森林を所有している人の92割がその所有面積5ヘクタール未満で、所有する森林も数か所に分散しています。このため、大型機械を使った森林整備は、効率の面からまとまった面積が必要となります。多数の同意が必要となります。

## 森林を育てるには

### 〈間伐・皆伐で丈夫な森林へ〉

人工林は、特に間伐（間引

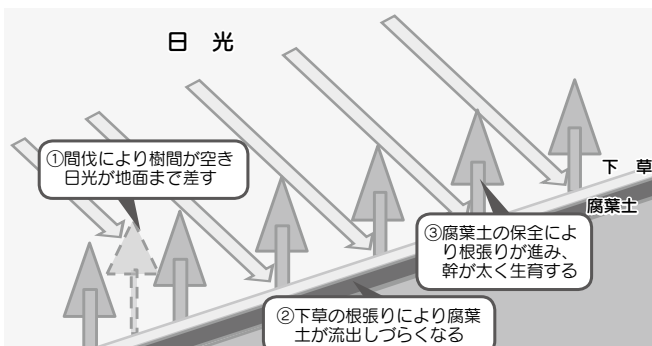
き）が必要です。間伐をしないと枝葉が重なり、互いの成長を阻害して、細長い木になるってしまいます。これでは木材の価値が見込めないばかりか、根の張りが弱く、山崩れや土砂の流出など災害の原因にもなります【図1】。適宜間伐を行うことで、林内が明るく下草が生え、太く丈夫な木が育つ環境を保つことができます【図2】。

その後、すべての木を切る皆伐も必要です。利用可能な木を伐採し、その後に苗木を植えるという森林のサイクルを作り、林齢の偏りを無くします。

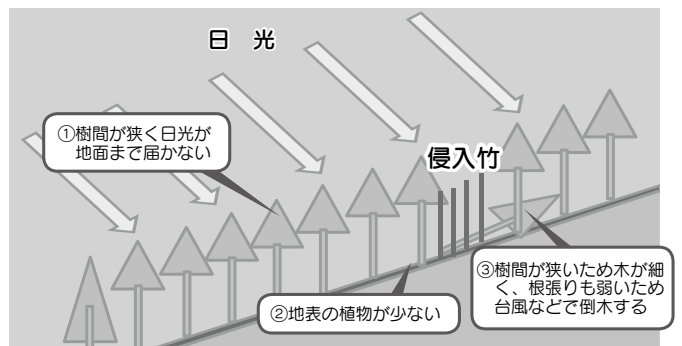
### 〈高性能機械で行う林業施業〉

近年の森林整備では、間伐材であっても木材を有効利用するために、搬出するのが主流です。大型の高性能林業機械で作業を行うため、効率の面から森林施業区域の集約化が必要です。

このような状況を踏まえて、次ページからは、間伐・皆伐などの森林施業を行う事業体や企業の取り組みを、さらに地域で行われている森林保全活動などを紹介します。



【図2】 健全な森林のイメージ



【図1】 荒廃した森林のイメージ

## 山は手を加えた分だけ応えてくれる これが林業の最大の魅力です



伊万里西松浦森林組合  
総務課長 兼 業務課長 池田孝道さん

伊万里西松浦地区の森林整備を担っています。林業はその成果が出るまでに数十年という時間がかかりますが、努力すれば必ず報われます。林業はキツイ仕事という印象があるかもしれませんが、高性能林業機械が導入され、当組合に若い技術職員が増えるなど楽しく森林の手入れを行っています。これからの林業の未来は明るく楽しみでもあります。また、間伐を行った森林には光が差し込み、作業前と比べて見違えるように美しくなります。森林が生き返ったようなすがすがしい、何物にも代えがたいと思う瞬間です。これが林業の魅力の一つでもあります。今後も低コスト作業や安全に考慮しながら森林整備を行い、地域の林業を守り育てる取り組みを進めます。

## 私たちの財産を子孫へ引き継いでいくため まずは山に入るための森林作業道の整備を



株式会社伊万里木材市場  
常務取締役 素材部統括部長 山口英樹さん

伊万里木材市場は素材生産から木材の流通、プレカット加工を行っています。私たちは、素材生産者として平成 25 年度から森林整備事業に着手しています。自分が所有する山の状況を知らない人が増え、「境界が分からない」という声を聞きます。森林整備の基本には、木材を運び出す森林作業道が不可欠です。道があれば、間伐などの作業をした後も、森林所有者が自分の山に車で入ることが出来ます。自分の山を自分で管理できれば、子孫へ引き継いでいくことができます。これまで同様、伊万里西松浦森林組合と一緒に、地域の木材を利用する取り組みに携わり、森林整備を進めていきたいと考えています。

# 森林を守り次世代に引き継いでいく

資源を余すことなく活用し、環境保全に貢献します



中国木材株式会社  
電気事業部副部長 池田憲政さん

中国木材では、戦後大量に植林されてきた人工林を活用するため、スギとベイマツによる異樹種集成材の開発に取り組んできました。この集成材は、今まで利用できないからと山に放置されていた曲がり材などの欠点を克服し、木材を有効活用するための取り組みです。さらに、この度、伊万里事業所においても、木質バイオマス事業を開始します。これは、伊万里事業所から発生する木材チップや樹皮の木質副産物、山林に放置されてきた未利用材を、木質バイオマス燃料として発電に有効活用する設備です。伊万里事業所の木質バイオマス発電量は 9,850kwh。これは一般家庭の 1 か月の電力使用量を 280kwh とした場合、約 25,700 戸分を賄うことが出来る計算になります。



2月から稼働のバイオマス発電所

森林を守るためにできること  
〜各種制度紹介〜

### ■家を建てようとする人は

県産木材使用の優良木造住宅  
新築費用に50万円を補助します

### 【補助要件】

▽県認定の「県産木材地産地消の応援団」が取り扱う新築木材住宅  
▽県産木材使用率が6割以上（構造材）かつ外装などに10立方  
以上 など

●問合先 一般社団法人佐賀県木材協会（☎0952-236181）

### ■山を所有している人は

#### ①森林経営計画を策定する

森林の施業や保護など、森林所有者などが策定する実行管理計画に沿って森林施業をする  
と、間伐などの施業に対し、国・  
県の補助を受けられます。  
※森林経営を事業所に委託するこ  
ともできます。

#### 【相談先】

▽伊万里西松浦森林組合

（☎233398）

▽株式会社伊万里木材市場

（☎202183）

#### ②保安林の指定を受ける

指定を受けると立木伐採などの制限を受けます。また、固定資産税や不動産取得税、特別土地保有税が非課税になります。

●問合先 伊万里農林事務所林務課（☎236159）

環境保全の取り組み

森林の学校

(大川町東田代)



東田代区森林の学校  
校長 瀧上 定さん

大川町東田代区は、市から『森林の学校』に指定されています。里山の環境を守るため、県民参加の森林づくり事業を活用して地域住民が一丸となって、植樹をはじめとする環境保全活動に取り組んでいます。

森林の恵みに感謝するとともに、森林を守り育てる意識を育むため、今年も植樹祭を開催します。誰でも参加でき

ます。皆さん、どうぞ東田代区に遊びに来てください。

◆植樹祭

日時 2月21日(日)

午前9時30分(小雨決行)

場所 井手口川ダム周辺

施設(大川町東田代)

対象者 小学校3年生以上

※小学生は保護者同伴。

参加料 無料

募集人数 100人程度

※弁当とお茶を用意します。

応募方法 各町公民館などに備え付けの応募用紙に必要事項を記入し、郵送か

ファックスしてください。

募集期限 2月12日(金)

応募・問合せ先

〒848-8501 伊万里市立花町1355-1

地域振興・公共交通対策課

(☎)2114、(FAX)27213



昨年開催された植樹祭の様子

# 関心を持つことから始めよう

里山整備の取り組み

高尾山保全の会

(南波多町原屋敷)



高尾山保全の会  
会長 井手孝通さん

私たち高尾山保全の会は、南波多町原屋敷にある高尾山で、平成25年度から国・県の補助事業を活用して里山整備を行っています。

それ以前からも、絶滅危惧

種の『タイワンツバメシジミ(ちよう)』の生息地である大野岳自然公園の環境を守るため、森林整備に力を入れてきました。

地域の子ども達に、里山を守ることの大切さを受け

継いでもらい、『地域の宝』を残すために力をあわせて

活動を続けています。私たちが植えた苗木は、将来の

子ども達へのすてきな贈り物となるでしょう。

春には、桜の苗木にかわ

い花が咲きます。市民の憩いの場として、ぜひ花を

見に来てみませんか。

私たち一人一人が山に関心を持つこと、そして、できることを考えましょう



産業部副部長 兼 農山漁村整備課長  
力武 健一

市には、山代町に伊万里木材コンビナートがあります。木材を使う側の施設は充実しているものの、間伐などの森林整備はなかなか進まず、荒廃森林率は高い状況にあります。現在市では、森林からの木材の搬出は森林経営計画により民有

林と市有林を一体的に整備して環境の保全を行っており、大川町山口地区・駒鳴地区で実施しています。今後は、地域でまとまって効率的に森林整備を行うために、ほかの地区においても素材生産者と協力して森林経営計画の作成を推進していきます。さて、今年から新たな祝日、山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する『山の日』(8月11日)が設けられました。これを機会に、森・里・川・海のつながりや、森林資源の活用について再確認してみませんか。私たち一人一人が森林を自分のものとして、できることを考えることが、森林を守る大きな力になるのではないのでしょうか。



↑ 12月23日に、森林に侵入した竹を活用した門松づくりを開催